

兵庫県における日本紅斑熱の発生状況

資料 6

1 保健所別発生状況の推移

保健所	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	総計
神戸市	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	1	7
尼崎市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
姫路市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
西宮市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
伊丹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
宝塚	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
明石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加古川	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
加東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
龍野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤穂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊岡	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
朝来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
丹波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
洲本	1	4	3	5	1	0	1	3	6	7	5	36
総計	1	4	4	5	1	1	1	5	11	9	13	55

・尼崎市、芦屋、伊丹は、過去10年間に患者の発生がなかった。
 ・2016年は1月1日から12月11日(49週)までの速報値。

2 平成28年 兵庫県における個別発生状況

No	発生届出日	管轄保健所	年齢	性別	症状	推定感染地
1	6月8日	洲本	60歳代	男	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	淡路
2	7月22日	洲本	60歳代	女	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	淡路
3	8月24日	尼崎	50歳代	女	発熱、刺し口、肝機能異常	阪神
4	9月6日	洲本	60歳代	男	発熱、発疹、DIC、肝機能異常、その他	淡路
5	9月6日	伊丹	60歳代	男	発熱、刺し口、発疹	阪神
6	9月29日	洲本	70歳代	男	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	淡路
7	10月4日	芦屋	70歳代	男	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	阪神
8	10月14日	神戸	90歳代	女	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	阪神
9	10月14日	宝塚	60歳代	女	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、頭痛	阪神
10	10月24日	芦屋	70歳代	女	発熱、刺し口、発疹	阪神
11	10月28日	尼崎	70歳代	女	発熱、発疹、肝機能異常	阪神
12	10月28日	洲本	70歳代	女	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、頭痛	淡路
13	11月16日	加東	80歳代	女	発熱、発疹	北播磨

平成28年1月1日～12月11日までの届出数(速報値)。

事 務 連 絡
平成 28 年 10 月 25 日

各健康福祉事務所長 様
各保健所設置市保健所長 様

健康福祉部健康局
疾病対策課長

日本紅斑熱の発生について（情報提供）

このことについて、今年に入り、6月8日から10月21日現在までに兵庫県内で別紙の患者情報のとおり9件の日本紅斑熱患者の届出がありました。

そのうち、8月22日（34週）以降から過去10年間届出のなかった尼崎市保健所管内（1名）、芦屋健康福祉事務所管内（1名）、伊丹健康福祉事務所管内（1名）から発生しており、阪神地域で計5名の患者発生がみられています。推定感染地の特定には至っておりません。

日本紅斑熱は、「リケッチア ジャポニカ」の病原体に感染しているマダニからの刺咬によって感染します。発生時期として春から秋にかけて注意が必要といわれています。

つきましては、患者の発生状況について注視していただくとともに、発生時の推定感染地の情報収集および研修会等での当該感染症に関する注意喚起など対応をよろしくお願いいたします。

なお、別添のとおりに県医師会等へ周知しておりますことを申し添えます。

担当 兵庫県健康福祉部健康局 疾病対策課感染症班 村上 TEL 078-341-7711（内線 3295）

平成28年 県内における日本紅斑熱発生状況

＜患者概要＞ 平成28年1月1日～10月21日までの届出数(速報値)。

No	発生届出日	管轄保健所	年齢	性別	症状	推定感染地
1	6月8日	洲本	60歳代	男	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	淡路
2	7月22日	洲本	60歳代	女	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	淡路
3	8月24日	尼崎	50歳代	女	発熱、刺し口、肝機能異常	阪神
4	9月6日	洲本	60歳代	男	発熱、発疹、DIC、肝機能異常、その他	淡路
5	9月6日	伊丹	60歳代	男	発熱、刺し口、発疹	阪神
6	9月29日	洲本	70歳代	男	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	淡路
7	10月4日	芦屋	70歳代	男	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	阪神
8	10月14日	神戸	90歳代	女	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	阪神
9	10月14日	宝塚	60歳代	女	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常、頭痛	阪神

【参考】

日本紅斑熱とは

病原体を保有したマダニに刺咬後、潜伏期は2～8日で頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。発熱、発疹および刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられる。ツツガムシ病と同様な症状で臨床的な鑑別は困難である。

ヒトからヒトへ感染することはない。

一般的には、テトラサイクリン系の薬剤等で治療することにより予後良好ですが、重症化することもあり、重症化した場合は、DIC、多臓器不全などを起こして死亡することもある。

予防と早期診断・早期治療が重要。疑わしい場合は、すぐに医療機関の受診が必要である。

＜予防のポイント＞

野山や畑、草むらなど、ダニの生息場所に出かけるときにはダニに刺されないように次のことに気をつける。

- ①肌の露出を少なくし、防虫スプレーを使用する。
- ②直接、草むらや地面に座ったり、衣服をおかない。
- ③帰宅後はすぐに入浴し体についたダニを落とし、新しい服に着替える。
- ④ダニに咬まれた後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診する。

